

# 図書館だより

## 第28号

八千代市立大和田図書館 482 - 3240

八千代台図書館 482 - 0912

勝田台図書館 484 - 4946

緑が丘図書館 489 - 4946

ホームページ <http://www.library.yachiyo.chiba.jp>

## 八千代市中央図書館等整備構想を策定しました。

構想は市内各図書館でご覧いただけます。

「八千代市中央図書館等整備構想」は、平成21年3月に策定されました。この整備構想では、中央図書館と市民ギャラリーの機能を持つ複合施設として、双方の相乗効果を図り、学び、憩い、集い、情報の場として整備し、市民の学習や文化芸術活動を支援し、子どもから大人まで幅広い年代の心のオアシスとなる文化施設をめざします。

中央図書館は、生涯学習施設として、市民の学習を支援し、快適な読書空間を提供すると共に、地域資料や情報が得られる場としての機能を持ち、インターネットや電子メディアを活用した情報拠点となる図書館を整備します。

また、市民ギャラリーは、文化芸術の発表の場としての市民展示室や市民会館にある星襄一版画展示室を移設し、収蔵美術品も合わせた常設・企画展示室と美術収蔵庫を整備します。



### 八千代市のめざす図書館

図書館は、すべての市民が求める資料・情報への要求に応えるため、積極的かつ公平な資料・情報の収集、整理、保存、提供、発信により、市民一人ひとりの生涯にわたってさまざまな活動と課題解決を支え、暮らしに役立つ、地域に根ざしたサービスを行います。

そこで、図書館サービスの中心となり、地域図書館を支援し、市民の要望に応じていくために、次のような役割と機能をもつ中央図書館の整備が求められています。

生涯学習施設として、知的活動や創造的文化活動を支援する市民のための図書館

快適な読書空間としての図書館

文化と潤いのある八千代市にふさわしい図書館

高度情報化時代に対応できる情報拠点としての図書館

# 7月7日は七夕の■です

私たちが知っている七夕の話は、中国と日本の神話のもとになっています。

## ☆☆☆ 中国の織姫と彦星の伝説 ☆☆☆

中国の天帝の娘織姫は、機織りが上手な姫でした。天の川の向こう岸には彦星という働き者の牛飼いがいました。ふたりは結婚して仲良く暮らしますが、怠けて仕事をしなくなります。怒った天帝はふたりを天の川の兩岸に引き離し、7月7日の夜だけ川を渡って会えるようにしました。



一方、中国では昔から「乞巧奠（きこうでん）」という行事があり、女性が星に果物を供え、7本の針に5色の糸を通して、裁縫や手芸の上達を願っていました。乞巧奠は、機織りの上手な織姫の伝説にあわせて7月7日の夕方から行われるようになり、「七夕（しちせき）」と呼ばれるようになりました。



## ☆☆☆ 日本に伝わり七夕（たなばた）となる ☆☆☆

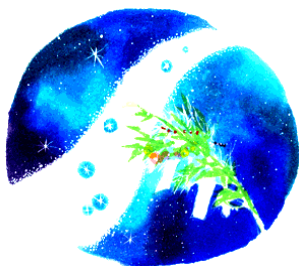
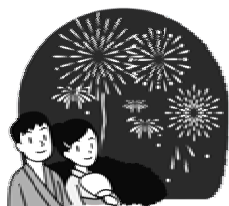
七夕（しちせき）は奈良時代に日本に伝わり貴族の行事となりました。貴族は、庭に祭壇を造って海や山の幸を並べ、和歌を書いた木の葉を竹ざおにつるして、詩歌や音楽、裁縫などの上達を願いました。このころの日本には、「水辺で機を織り、神様に美しい衣を捧げる乙女」の伝説、棚機津姫（たなばたつめ）の伝説がありました。この棚機津姫の伝説と中国から伝わった織姫の伝説が重なり、七夕（しちせき）は七夕（たなばた）と呼ばれるようになりました。



## ☆☆☆ 庶民の七夕（たなばた）へ ☆☆☆

徳川幕府が七夕を含む五節句を式日と決めたので、七夕はまず武士の間に広まりました。その後、日本に寺小屋が増えてくると、習字や習い事の上達を願う行事として、17世紀の末頃から庶民の間にも広まりました。このころの七夕は、私たちが知っているやり方とほとんど同じです。願い事を書いた5色の短冊や、5色の紙を細く切った吹き流し、紙で作った衣服や扇を笹の葉に飾ったりしました。

江戸時代までの七夕は旧暦の7月7日でしたので、今の暦では8月上旬にあたります。今でも8月7日前後には日本各地で七夕祭りが行われています。青森のねぶた祭りや、仙台や能代の七夕祭りは、豪華な山車や飾りが街を彩る、夏の風物詩として知られています。



参考文献：「年中行事」

新谷尚紀 / 監修、ポプラ社

# 七夕のいろいろ

**眠り流し** 旧暦の七夕は現在では8月上旬ごろで、暑さと疲れで眠気に襲われるころです。穢れを流すと同時に睡魔を払うために水浴びしたり髪を洗い流す習慣があり、眠り流しと呼ばれていました。

**七夕の食べ物** 機織や裁縫の上達を願う女性たちが、そうめんを糸に見立ててお供えをして食べていたことから七夕にそうめんを食べる習慣があります。



**七夕のお供え物** 彦星は農耕を、織姫は技芸を象徴すると言われ、この2つの星に、桃、瓜、なす、あわび、梨などの山海の産物や、琴や香炉、五色の糸などをお供えしました。

**七夕送り** 七夕飾りは七夕が終わると海や川へ流しました。笹竹に心身の穢れを移し、穢れを流す意味もあったと言われています。



**七夕馬** 7月7日に七夕馬を飾る風習があります。迎え馬とも呼ばれ、祖霊でもある七夕様が乗ってくる馬をワラやマコモで作り、門口に飾りました。

**5色の短冊** 笹竹に5色の短冊を飾る習慣は、七夕のもとになった中国の乞巧奠（きこうでん）に由来します。女性が7本の針に5色の糸を通して、裁縫や手芸の上達を願いました。7月7日に芋の葉の露で墨をすり、この短冊に願い事を書いて笹竹に吊ると、願い事が叶うとも文字が上手くなるとも言われています。



## 七夕の本と紙しばい・・・です。読んでみて下さい！

### 一般書

七夕の紙衣と人形	石沢誠司	ナカニシヤ出版
祭りを旅する（5巻）東北・北海道編		日之出出版
ちりめん細工季節のつるし飾り	井上重義	雄鶏社
五節供の楽しみ	冷泉為人	淡交社
千葉県の七夕馬		千葉県立房総のむら
児童書		
七夕星まつり	藤井旭	ポプラ社
ほしにおねがい	武鹿悦子	教育画劇
おりひめとひこぼし	矢部美智代	世界文化社
たなばたむかし	大川悦生	ポプラ社
紙しばい		
ねがいごとはないしょのひみつ	山本和子	教育画劇
たんざくにおねがいかいて	木暮正夫	教育画劇



## こども読書の日記念イベントがありました

「子ども読書の日（４月２３日）」を記念して、イベントを行いました。

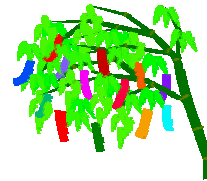
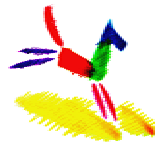
４月２９日（水）に、市内４図書館で、「親子で楽しむ絵本の会」（２～３歳の親子対象）、「おはなし会」（４歳～小学生対象）などを行いました。また、子ども読書週間（４月２３日～５月１２日）には、好きな本の感想などを書いてボードで作った木にはる「この本だいす木（き）」、本を読んで答えるクイズも行いました。多くの子どもたちに参加してもらい、とても楽しいイベントになりました。みなさま、どうもありがとうございました。

\*夏休み期間にも、おはなし会、工作、映画会などの楽しいイベントを行う予定です。ぜひご来館ください。



## “ 広がれおはなし 八千代連絡会 ”の交流会がありました

地域や学校で、子どもたちへの読み聞かせをするボランティアグループが増えてきました。そこで、５月２７日（水）に、地域ボランティアグループ、学校で読み聞かせをしている保護者のボランティアグループの代表者、図書館職員が教育委員会会議室に集まり、交流会が開かれ、連絡会を発足しました。活発な意見交換の後、活動歴２０年の大山裕子さんによる手遊びと素ばなしの実演を楽しみました。図書館でも、読み聞かせボランティアの活動を支援していきたいと思います。



図書館だより 第２８号

平成２１年７月発行

編集 緑が丘図書館

八千代市緑が丘３－１－７

０４７－４８９－４９４６